

官民連携まちなか再生勉強会

特別
公演

まちに ダイブせよ!!

「つくる」から「つかう」へ。
これからの丸亀のまちづくりを一緒に考えませんか？

丸亀市では、官民連携によるまちづくりとして、「遊休不動産の利活用」の取り組みを進めてきました。その一環で、まちなか再生のコンセプトとして「やりたいができる、出番と居場所があるまち」を定めました。その動きの中で、株式会社スナック(家守会社)や株式会社HYAKUSHO(都市再生推進法人)の2社のまちづくり会社が設立され、民間を中心としたまちづくりが進んできています。市役所庁舎の再整備に加え、市民交流活動センター(マルタス)の運営も開始され、市民会館(みんなの劇場)の整備段階に移行しています。すでに、大手町再編整備の取り組みも折り返しを迎え、今後丸亀市のまちなかは「つくる」フェーズから、「つかう」フェーズに入っていきます。その「つかう」をみなさんと一緒に考えながら進めていくための勉強会を開催しますので、ぜひご参加ください。

2023 **12/27** [WED] 18:00-20:00

 **丸亀市市民交流活動センター(マルタス)**
2階 Room4 丸亀市大手町2-4-11(丸亀駅から徒歩約10分)

参加無料

参加申込は
こちらから▶



GUEST



藍谷 鋼一郎氏

(あいたに こういちろう)

テキサスA&M大学・准教授/
九州大学・客員教授/建築家

藍谷鋼一郎氏は、米国の大手組織設計事務所SOM(Skidmore, Owings & Merrill, LLP)で、米英を拠点に巨大プロジェクトに従事するなど、海外での経験豊かな建築家で、現在はテキサスA&M大学建築学部の准教授や、九州大学の客員教授を務めています。著書「アーバン・カタリスト」では、その意味を「都市の触媒」とし、都市再生の契機となり、再生効果を促進させる起爆剤となる要素と位置付け、そうした事例を分析し、これからのまちづくりの視点を整理してくれています。隣の徳島市新町川における中心市街地の活性化の研究だけではなく、英国ロンドンの面的再開発「オリンピック・レガシー」、米国ニューヨークの高架貨物線跡地利用「ハイライン」、スペインのビルバオ「グッゲンハイム美術館」の誘致によるまちへの波及効果、シンガポールにおける新旧2つのシンボル(マー・ライオンとマリーナベイサンズ)によるまちの回遊性の向上などの事例から、ハードからソフト的な取り組みまで、都市再生デザインについて講演をいただきます。



ニューヨーク・ハイライン

GUEST PROFILE

1968年徳島県生まれ。九州大学卒、バージニア工科大学大学院修了。九州大学大学院人間環境学府にて博士(人間環境学)取得。1994年に渡米後ボストンのTDG,世界最大手設計事務所Skidmore, Owings & Merrill, LLP(SOM)のサンフランシスコ及びロンドン・オフィスで建築家として欧米、アジア、中近東諸国の巨大プロジェクトに従事する。NATO本部ビル(ベルギー)やガラスのカトリック大聖堂(カリフォルニア州)などのデザインコンペで最優秀賞受賞。2007年、13年ぶりに帰国後、九州大学大学院人間環境学府 都市・建築学部にて特任准教授、2013年よりアメリカ合衆国テキサスA&M大学建築学部・准教授として再び渡米する。同年より九州大学・客員教授。写真撮影を趣味とし新聞・雑誌に多数寄稿、また国内外でのシンポジウム、ワークショップなどアウトリーチ活動も活発に行う。専門分野: 建築デザイン、アーバン・デザイン、都市再生。



ビルバオ・グッゲンハイム美術館



シンガポール

主催: 株式会社HYAKUSHO (問い合わせ: info@hyakusho.co.jp)